

Wi-Fiのビジネス活用術(第6回)

実は取り組み続々。外国人観光客向け無料Wi-Fi

2016.09.14

2003年、外国人観光客の訪日促進を目的とした「ビジット・ジャパン」事業がスタートしてから13年余り。当時年間500万人程度だった訪日客は2015年度に2000万人を超え、今後も順調な伸びが予想される。リピーター獲得につながる満足度の向上が重要なテーマになりそうだ。

より使いやすいWi-Fi環境整備が必要

外国人観光客の満足度を向上させるには、まずニーズを的確に把握する必要がある。観光庁が2016年1～3月期に行った「訪日外国人の消費動向」(平成28年1～3月期報告書)では、「日本滞在中にあると便利な情報は？」という問いに対し、半数を超える52.3%の訪日外国人が「無料Wi-Fi」と回答(同報告書 P24 図表5-3)した。無料Wi-Fiの提供エリアの拡大とともに、より使いやすい環境整備が求められている。



「Japan Connected-free Wi-Fi」のWebサイト

無料Wi-Fiの利用に際しては、情報セキュリティ対策の目的で事前にメールアドレスやパスワードを登録する場合が多い。登録が日本語のみでは、外国人にとって不親切なサービスになってしまう。まずは初回接続時の表示画面を多言語対応にしなければならない。

また、登録はサービス提供者ごとに必要なので、できるだけ負担を少なくしたほうがよい。NTTBが2013年に提供を開始した「[Japan Connected-free Wi-Fi](#)」は、一度登録すれば、ワンタップでなんと全国約14万5000カ所の無料Wi-Fiに接続できるサービスだ。スマートフォン用の無料アプリとして開発され、オフライン地図のダウンロードやSNSアカウント認証の機能を持っている。英語、中国語など13言語に対応する本サービスの累計ダウンロード数は180万に上る(2016年9月8日現在)。

「つながる」だけから「使える」Wi-Fiへ… 続きを読む